

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」宇都宮東築瀬校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 11日		～	2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 11日		～	2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様との対話の機会が多い為、ニーズに合わせた支援を実施できる。	・保護者様やご利用者様へ積極的に声をかけることで、小さなことでも相談しやすい関係作りを意識している。 ・フィードバックでは、ご利用者様の様子や成長を丁寧に伝えられるよう努めている。	・保護者様のお話を丁寧に傾聴することで家族支援の充実を図り、ご利用者様の成長のサポートにつなげていく。 ・ご利用者様や保護者様のニーズに応えられるよう、社内研修や教室内での話し合いを通して支援の質を高める。
2	ご利用者様の目標について教室全体で共通認識を持ち、一貫した支援を実施することができる。	・ご利用者様の現状、今後の目標について教室内で話し合うことで共通認識を持って個別支援計画を作成している。 ・ご利用者様に対して丁寧にアセスメントを行い、保護者様と相談しながら目標設定をすることで、一緒に成長を喜ぶことのできる環境を作っている。	・ご利用者様の現状を把握するため、関係機関連携を行うことで自教室だけでなく様々な場所での姿を見る機会を作っていく。ご利用者様に対して、多方面からの支援を実施できるよう取り組んでいく。
3	・教室が広い為、運動療育など幅広い活動を実施できる。 ・小集団イベントも開放的な空間で楽しめる。	・教室内が広い為、机上活動や微細運動と合わせて、運動教具を使った粗大運動も積極的に取り入れている。 ・小集団イベントでは、スペースを広く使った「サーキット」「リトミック」、長期休みの宿題では「習字」など幅広い活動を実施している。	・運動療育を通して楽しみながら成長を促せるよう、活動プログラムの幅を広げる。体を動かしながらゲーム感覚で学習につなげるなど、自教室だからこそできる活動を模索していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室が広い為、集中できる支援スペースを作りにくい場合がある。	・パーティションでスペースを区切り、個別スペースをすることで視覚的な刺激を少なくしている。 ・完全な個室は作らず、保護者様や他職員から見える状態で支援を行っている。支援の様子が見えることで保護者様への安心感につながるよう意識している。	・パーティションを多めに設置し、個別スペースをしっかりと確保することで、ご利用者様が落ち着いて過ごせる環境構成を行っていく。集中できる環境として、少し離れた相談室スペースも活用していく。
2	学校や幼稚園・保育園など、関係機関や地域との連携がまだ少ない。	・新しく開所した教室として、各関係機関にご挨拶に伺っている。今後、関係機関連携を行う際に情報共有がしやすいよう関係性構築に努めている。 ・保護者様から、学校や園生活での集団のご利用者様の様子について伺い、個別支援に生かしている。	・保護者様のご要望に応じて、関係機関連携を実施していく。ご利用者様の集団の中での姿を把握し、個別支援で丁寧に力を伸ばしていけるよう働きかけていく。 ・地域の方にもご利用いただける場を作り、地域にも貢献できる教室を目指していく。
3	保護者間の交流の機会がまだ少ない。	・保護者様同士で交流をする機会はないが、「家族支援」として保護者様が相談できる場を設けている。小さなことでも相談しやすい関係性構築に努めている。	・保護者様のご要望を伺い、保護者会実施のニーズに合わせて開催を検討する。保護者様同士での交流を通して、相談したり悩みを共有できる場を作ることで、より安心して通える教室を目指していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」宇都宮東築瀬校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 9名

回収数 9名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	0	0	0		広い空間で開放感があるため、ご希望に応じて粗大運動などのプログラムを積極的に取り入れていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	0		安全な基準配置を満たした教室運営を行っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	0	0	0		安心して利用できるよう、装飾や掲示をすることで過ごしやすい雰囲気を作っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	0	0	0		お子様や保護者様が清潔な空間で過ごせるよう、日々清掃・消毒を行っていく。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	0	0	0		支援を積み重ねる中でお子様への理解を深め、保護者様へ丁寧にフィードバックできるよう努めている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	0	0	0		教室内での話し合いを経て支援プログラムを作成し、HPにて公表している。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	0	0	0		保護者様のニーズを確認し、お子様の目標について一緒に検討しながら個別支援計画を作成していく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	0	0	0		保護者様のニーズを確認したうえで、5領域に基づき、お子様の発達段階に合わせた個別支援計画を作成している。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	0	0	0		教室全体で個別支援計画を共有し、一貫した支援を提供できるよう努めている。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	0	0	0		お子様の成長に合わせて、保護者様のニーズも確認しながらプログラムをステップアップさせていく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1	1	3		幼稚園や保育園との連携や、外部の方とのつながりを作り、地域に開かれた雰囲気づくりを目指していく。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	0	0	0		重要事項説明書を読み合わせながら、契約時に説明を行っている。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	0	0		お子様の目標を共有しながら、個別支援計画についての説明を行っている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1	1	1		プログラムとしての実施は行っていない為、保護者様のニーズを踏まえて実施を検討していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9	0	0	0		日頃から保護者様とお話しする機会を作り、お子様の情報共有を密に行っていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	0	0	0		フィードバックや家族支援を通して、保護者様が相談しやすい関係性の構築に努めていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	0	0	0		お子様の目標を保護者様と一緒に考え、前向きに通所ができるような関わりを大切にしていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	3	0	3	・家族支援制度があるのは分かるが、他保護者との交流については分からない。	プログラムとしての実施はまだ行っていない為、保護者様のご要望に応じて開催を検討していく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	0		ご利用者様や保護者様からご相談があった場合には、教室間で共有し迅速に対応できるよう努めている。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0		お子様への理解を深めながら支援にあたることで、保護者様にも分かりやすく伝えられるよう努めている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	0	2	・HP、SNSをあまり見ないのでわからない。	定期的にSNSにて事業所の活動紹介を行っている。事業所内にも活動や避難訓練などの様子を掲示している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	0		SNS等に写真を掲載する際は、都度保護者様に確認し了承を得てから掲載をしている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	0	0	1		各種マニュアルについて、避難訓練と合わせて掲示することで保護者様への周知につなげていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	0	0	2	・訓練実施など、掲示物がない為不明。	定期的に避難訓練を実施し、活動の様子を校舎内に掲示することで保護者様への周知にもつなげていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	0	0	0		災害時の避難場所を含め、非常時の対応について周知し安全な教室運営を行っている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	1		教室内での事故や怪我が起きた場合に、保護者様へ迅速に連絡ができるよう体制を整えている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9	0	0	0	・通い始めてすぐ母子分離ができ、本人も楽しそうに通わせて頂いています。	お子様や保護者様が前向きな気持ちで通所できるような関わりかけを心掛けています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	0	0	0	・とても楽しみにしています。	お子様が楽しく活動できるようなプログラムを教室全体で考え、実施している。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	0	0	0	・毎回細かく丁寧に支援内容を報告してくださり、子どもの成長に驚く日々です。	お子様の成長をサポートすることを目指し、丁寧な支援とフィードバックを心掛けている。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」宇都宮東築瀬校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		広い空間で開放感があるため、粗大運動などのプログラムを積極的に取り入れている。	体を動かしやすい分、ご利用者様同士の接触や怪我に留意して対応を行っている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員の人数に応じて、受け入れ人数の調整を行っている。	フィードバックの場面では、安全に過ごせる環境構成や活動の提案を行っている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		教室入り口や室内の設備は、ご利用者様が見て分かるように掲示をしている。	教室を出てすぐ駐車場になる為、ご利用者様の出入り時には、保護者様と手をつなぐよう声をかけて対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		ご利用者様が安心して利用できるよう、手作りの装飾で明るく過ごしやすい雰囲気作りを心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		支援スペースをパーティションで仕切り、ご利用者様が落ち着けるよう個別の部屋を作っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員それぞれが目標を設定し、面談を通して定期的に振り返りの機会を作っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1年に1回、保護者様へ評価表の記入をお願いしている。ご意向を確認し、教室内で話し合いを通して業務に反映させている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		教室で話し合いの場を作り、改善や対策など必要なことがある場合は全職員で意見を出しあって検討している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		評価を基に教室内で話し合いを行い、業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修が定期的に開催され、事例検討や各専門職の方からのお話を聞く機会を通して支援の質向上につなげている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保護者様のニーズを把握し、教室内で話し合いを経て支援プログラムを作成し、HPIにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者様のニーズを把握し、ご利用者様の目標と一緒に検討することを通して個別支援計画の作成を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者と指導員でご利用者様の様子を共有しながら、個別支援計画を立案・作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		保護者様に了承いただいた個別支援計画は教室内で共有し、計画に基づいた支援を提供できるような環境を作っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		定期的にあセスメントツールを用いて、保護者様と一緒にご利用者様の発達段階を確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ご利用者様や保護者様のニーズを確認し、活動内容について一緒に検討を行ったうえで支援を提供している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		それぞれのお子様の情報共有を密に行い、個別支援計画をもとに活動内容について職員間で検討し立案している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ご利用者様の現状とこれから目標にしてい くことなどを整理し、発達や成長に合わせた活 動プログラムを組み立てている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本的には個別療育を行っているが、集団行 動の目的に応じて小集団療育も実施してい る。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の 内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援記録を参考に引継ぎを行い、必要に応じ て支援前にも打ち合わせを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援 の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		ご利用者様の活動時の様子など、教室内での 情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に つなげているか。	○		支援記録を詳細に記録して、次回の支援に活 かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性 を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、活動の振り返 りや今後の目標設定を保護者様と共有したう えで計画を更新している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		保護者様や指導員からご利用者様の様子を共 有いただいたうえで、児童発達管理責任者が 参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、 教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関を訪問することで、連携を行うため の体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の 観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども 園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報 共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関を訪問することで、情報共有などの 連携を行うための体制を整えている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、 支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の方のご要望をうかがい、ご希望に応 じて連携が可能な学校に確認している。	ご利用者様の支援記録などを参考に情報共有 を行い、就学移行の不安を軽減できるようサ ポートしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携 を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受け たり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極 的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		連絡協議会や研修などの機会がある時には、 積極的に参加をしている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスー パーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこど もと活動する機会があるか。		○		幼稚園や保育園と連携したり、外部の方が利 用できる場を作るなどして、地域に開かれた 雰囲気づくりを目指していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や 課題について共通理解を持っているか。	○		保護者様へのフィードバック時に、ご家庭や 園でのお子様の様子を聞き取り、成長や発達 段階を共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログ ラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機 会や情報提供等を行っているか。		○	プログラムとしての実施は行っていないが、 「家族支援」としてご希望に応じて面談を実 施している。	プログラムとしての実施は行っていないた め、保護者様のニーズを踏まえて対応を検討 していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	○		重要事項説明書を読み合わせながら、ご利用 者様への説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊 重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家 族の意向を確認する機会を設けているか。	○		日頃から保護者様とご利用者様についての情 報共有を行い、成長や発達段階に合わせて作 成している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者様と話し合いをしたうえで個別支援計画を作成し、ご確認いただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		フィードバックや家族支援としての面談を通して、保護者様が相談をしやすい関係性の構築に努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		プログラムとしての実施はまだ行っていない為、保護者様のご要望に応じて開催を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		ご利用者様や保護者様からご相談があった場合には、教室間で共有し迅速に体制を改善できるように努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的にSNSにて事業所の活動紹介を行っている。事業所内にも活動や避難訓練などの様子を掲示している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報書類は鍵付き書庫で保管している。SNS等に写真を掲載する際は、都度保護者様に確認し了承を得てから掲載している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ご利用者様の特性への理解を深めながら支援にあたることで、保護者様にも分かりやすく伝えられるよう努めている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		幼稚園や保育園と連携したり、外部の方が利用できる場を作るなどして、地域に開かれた雰囲気づくりを目指していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		ご利用者様を交えた避難訓練を実施し、活動の様子を校舎内に掲示することで保護者様への周知につなげている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難訓練を実施し、社内研修などを通して事業所内で周知すべきことや点検が必要なことなどを確認している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に基本情報シートを作成いただき、既往歴や服薬などの情報を把握できるようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	飲食物の提供を行っていない。	飲食物の提供を行っていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		教室における安全計画を作成し、社内研修や訓練への参加を通して安全管理を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の避難場所を含め、教室内の訓練内容について保護者様へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事案が起きた場合には、様子を詳細に共有し、原因と対策を教室全体で検討する体制を作っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		支援スペースは外から様子が把握できるよう工夫し、社内研修を通して虐待防止への意識につなげている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束における条件を教室内で確認し、必要時以外は行わないよう共有したうえで保護者様へ説明を行っている。	